

知事記者会見の概要

日 時：令和2年4月13日(月) 15:30～15:56

場 所：記者会見室

出席者：知事、健康福祉部長、医療統括監、秘書課長、広報広聴推進課長

出席記者：15名、テレビカメラ6台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

(1) 県内における新型コロナウイルス感染症の確認事例について（第39例）

フリー質問

(1) 発表事項に関連して

<幹事社：河北・共同・TUY>

☆報告事項

知事

新しく1名の方の新型コロナウイルスの感染症の確認がされましたのでお知らせをいたします。本県内では、39例目の方となります。

この方は、40代の女性で、大蔵村にお住まいの特別養護老人ホームの関連事業所の職員の方です。4月5日からお休みをされています。

4月6日から37度台の発熱とのどの痛みがありました。4月7日に医療機関を受診されます。発症前1か月の海外、県外への行動歴はありません。濃厚接触者につきましては、現在調査中です。現在は、感染症指定医療機関に入院をされています。

この方は、感染者5と9の職場の関連事業所にお勤めで、感染者37の同僚の方です。

連日感染者が確認されておりますけれども、県民の皆様には、落ち着いて冷静に行動していただきたいと思います。そして、基本でありますけれども、丁寧な手洗いと咳エチケット、これをしっかりとおこなっていただきたいと思います。加えまして、3つの「密」、密閉、密集、密接、この3つの「密」を避けてくださるようお願いをいたします。

何と言いましても、この難局を乗り切るということには、県民の皆さん、お一人お一人のご協力、取組みが大切でありますので、今日も同じようなお願いをさせていただきます。

1点目でありますけれども、県外との往來を控えていただきたいと思います。出張や研修なども、当面の間、見合わせてください。

2点目は、法要などの様々な行事につきまして、これから連休も始まるわけですが、近いわけですが、そういう時にも法事といったことが多いかと思われそうですが、県外からの参加を見合わせていただきたいと思います。

それから3点目ですけれども、不要不急の外出はできる限り控えていただきたいと思います。また、繁華街の接客を伴う飲食店への出入りは、控えていただきたいと思います。

4点目ですが、県外にいるお子さんやご家族などには、当分の間、来県を控えてくださるようご家族からお伝えしていただきたいと思います。既に来県された方につきましては、来県されてから2週間程度、自宅待機や在宅勤務などによって健康観察をしていただきたいというふうに思います。

もう一つの注意事項としまして、新型コロナの感染が心配される当面の間は、事業所などで昼食や休憩を取る際に、一つの場所に集まるということ避けるとか、集まるとしても、間隔をあけて座るなどの工夫をしていただきたいと思います。

また、くれぐれも感染された方やそのご家族、職場、医療従事者などへの、差別や偏見、いじめなどは断じておこなわないでいただきたいと思います。そして、現在入院されている方々の一日も早い回復を、そして一日も早い日常生活に戻られますことを願っております。

最後になりますけれども、学校の休みが長くなっておりますので、生徒さんをはじめ若者の皆さんには、県外と往來することを厳に控えていただきたいと思います。県内で有意義な時間を過ごしていただきたいと思うのですけれども、何ができるか工夫してあるいは

考えてですね、お家のお手伝いがありますとか、働いているご家族の、何と云うのですかね、食事を作ってくれたなどというのちょっと最近聞いているところです。初めて子どもが作ってくれたというようなことも微笑ましいお話も聞いてございますし、掃除とか洗濯とかも料理とか、いろんな家のお手伝いもできると思いますので。それから、これから農作業も始まる、そういうお手伝いとかですね、いろんなことができるかと思います。ぜひ有意義な時間を過ごしていただきたいと思います。

本当に県民の皆さんお一人お一人が、ご自分の健康と、周りの大切な方々の健康をも考えて行動してくださるよう、よろしく願いをいたします。私からは以上です。

☆フリー質問

記者

日本経済新聞の浅山です。昨日に引き続きの話なのですが、先週土曜日に打ち出された総合戦略会議のですね、いわゆる県境での検温の実施の関係で、今日、秋田県知事がいろんな法的な面であるとかですね、大変難しいのではないかということをおっしゃっていたそうです。現実問題、普通に考えるとですね、昨日も知事がおっしゃったように法的根拠は何なのかとかですね、道路、車を止められないとか、多々実現に至っては困難があるかと思えます。一方でですね、そういうことをやるというアピールというか、抑止効果といった点を期待してのことかと思うのですが、実際週が明けましてですね、いろんな声がある中でですね、月曜日になりまして、「そんなの無理だ」とか庁内でもいろんな声があるとは思いますが、今の段階でやっぱりちょっと現実路線に走ったほうがいいのか、はたまた、いややっぱり益々気持ちとしては「これは必要だ」と思ってるのか、そのあたりの今の知事のお気持ちを。

知事

はい、そうですね。県境部分と言いましても、やはり道路と鉄路というのがあると思います。空港は簡単にと云うとおかしいですけども、空港はできると思っておりますけれども、鉄道であればやはりJRといった関係機関との調整ですね、どういったことができるかということになると思いますが、あと道路ですね、道路がやはり走っている車を止められないというようなことは、警察のほうから聞いているところであります。ですから、どういうふうにして道路から下りたところで検温とかですね、そういったことをさせていただきますというようなことでやるのかどうか、今日実は、関係者会議が行われると聞いておりますので、その具体的にどういったところまでできるのか、どういった役割分担でできるのかといったことをですね、今日から詰めていくこととなりますので、できる限りのことをやりたいと、こう思っています。

本当に気持ちとしてはしっかりと、やりたいのですけれども、さまざまな規制があるということも聞いているところであります。今、記者さんがおっしゃったように、結果的には抑止効果というものがあるかとは思っておりますが、それだけを考えるのじゃなくて、

できる限り実質的なことが、どんなに限られた中であってもやれるだけのことをやっていきたいというふうに思っております。

記者

こういう危機において、通常の行政の常識の中です、中の範囲ではなかなか思い切った手を打てないという現実があるかと思いますが、知事としては、そういうのを打破して、今までなかったような取組みをやっていきたいというお気持ちには変わらないということなのでしょうか。

知事

そうですね。やはり、もともと県内で始まったというようなことではなく、そもそも、いくつかの最初のほうの例がですね、やはり県外から持ち込まれているということがあります。これは、病気でありますから、そういった方々を責めるということではないのですけれども、私としては、県民の皆さんの命と安全を守るということに最大限の力を尽くさなければいけないと思っておりますので、できる限りのことをやりたいという気持ちでやらせていただきたいと思います。

記者

読売新聞の山口です。よろしくお願ひします。総合戦略会議についてなのですが、先ほど関係機関の会議がですね、今日から始まるということだったので、総合戦略会議自体の第2回目の会合の日程など目処が立っていらっしゃいましたらお願いいたします。

知事

まだ具体的には決定はしていませんが、できるだけ早くということで、内々にはありましたけれども、やっぱり今週中に、今週中と言っても今日、明日、明後日あたりは、まだ無理だと思います。まず機材も届いておりません。ですので、できる限り今週末くらいに開いて実施するというふうにしていければと思っています。

記者

わかりました。土曜日の時に鈴木議員も話されていたと思うのですが、第2回目を開いてこちら側に発表する時にですね、その実施の時期とか具体的に何を実施するとかも含めて発表されるという認識でよろしいですか。

知事

はい、そのようにして速やかに実施のほうに移っていききたいというふうに思います。

記者

わかりました。ありがとうございます。

記者

山形新聞の小田と申します。よろしくお願いいいたします。先ほどの続きなのですが、県境の検査ということで、県民の皆様からは、いわゆる県境を封鎖するのかというようなイメージが先行しているようなところもあります。実際それはなかなか難しいとは思いますが、知事の中での県境での検査というのはどのようなイメージをお持ちになっているのかということと、あと機材が届いていないということですが、具体的にどれぐらいの機材、おそらく検温の機械だと思いますけれども、どれぐらい今発注しているか、もしお答えできればというところでお願いします。

知事

そうですね。イメージというのは、先ほど申し上げました、県境と言っても、ちょうどだいたい山であったり、トンネルの真ん中でありましたり、実質的には県境と言えばそういうところになりますので、そこそのものでやるというのは大変難しいと思います。ですから、そこから県内のほうに入ってきてですね、鉄道であれば県内に入ってきてからの駅の改札口というようなことになるかと思えますし、私のイメージでありますけれども、道路でありますと、走っている車を止めるというのは法的にできないというふうにわかりましたので、そこで止めるわけではなく、やっぱり車がインターを下りてきて止まったところでというようなところになるのかなというふうに思っております。

機材はどのくらい注文したのか、ちょっと1回聞いたのですが、何個くらいか、ここに防災くらし安心部は来ていますかね。すいません、後でもよろしいでしょうか。

記者

追加ですね、実際検査をする場合、特に道路とかなのですが、24時間とか、そういう時間とかですね、あるいはいわゆる県の職員の皆さんが分かれてやるのかですね。

知事

そうですね、はい。

記者

それは分かれてやるということによろしいですか。

知事

その場所場所にですね、分散してやるということになると思います。

記者

場所場所で、はい。時間もある程度決めてということなのか、随時というか、そうなのか。

知事

そうですね、24時間が望ましいけれども、なかなかそこは大変なのかと思いますので、今日のその実務者会議といたしますか、関係者会議の中で多分話題になったのではないかなというふうに思っております。

記者

その実務者会議は、県庁内で、いわゆる関係部局の皆さんでされた会議ということですか。

知事

いや、県庁内だといつでもできますので、関係機関会議といたしますか、どこの誰ということまで私も聞いておりませんが、例えば、道路管理者は国土交通省とかですね、あと、鉄道ですとJRということになりますと思います。それからやはり警察ですね、やはりある程度お願いをするのかなと思っております。

記者

すでに今日の会議は終わったという。

知事

すいません、何時からやってるかわかりますか。

広報広聴推進課長

後ほど確認させていただいてからでよろしいですか。すみません。

記者

あと、最後になりますけれども、今回のいろいろな対応取られるかと思っておりますけれども、予算規模であるとかですね、そのあたりは知事の中で、どの程度になるとかですね、ある程度固まっているのでしょうか。

知事

予算のところはまだちょっと算定していない、私のところは、そこは聞いていないです。やはり機材ですとか、いろいろなものもかかっているのかなと思っておりますし、すいませんが、費用の方は後でわかればお知らせしたいというふうに思います。

記者

ありがとうございます。

記者

共同通信の白神と申します。私も県境での検温についてお伺いしたかったのですが、知事は昨日も、高速道路とかですと、走っている車を法的に止めることはできないので、インターを下りてということで、全台は難しいというお話をおっしゃっていたと思うのですが、やるからにはやっぱり24時間、全台やらないと、こういうコロナウイルス、外から入ってくるものに関しては止められないというふうに思うのですが、この総合戦略会議のメンバーの中で、県境で検温すると言った時に、そこは24時間全台数でやるとか、知事のように全部は無理だとかです、認識に乖離とかです、幅というのはあったりしたのでしょうか。

知事

いえ、皆さんですね、考え方としては完全にやるのが望ましいのですが、ただ、法的にできないことがあるということが、調べれば調べるほどわかってきておまして、そこをなんとかクリアできるものはクリアし、手伝っていただけたところは手伝ってくださいというようなお願いをしながらですね、今、やっているところです。ですから、みんな、県境でとにかくウイルスをですね、そこで本当にストップさせたいねという思いは一緒で、ご提案の時も、私どもが会議の時にも、考え方としては共通しております。ですが、実際にといった場合に、その法的なことありますとか、また人的不足でありますとか、機材が全部は調達できないとかです、いろんなことがありますので、そのできる範囲内でとにかく少しでもウイルスをストップできればというふうに思っているのも、会議の前の打合せといいますか、そういうところでは共通の認識だと思っております。

記者

やはり全台じゃないとかなりすり抜けるものもあると思うのですが、それでもやっぱりやらないよりはやったほうがいいということで、そこに予算をつぎ込むのもやる意味があるというふうにお考えになっているということですか。

知事

はい、意味も何も、山形県民のですね、あるいは県に住んでおいでの方の命と安全を守るというのは、もう最大の使命だと思っておりますので、それはできる限りのことをやらなきゃいけないというふうに思っています。今まで、今日は1名の方でありましたけれども、その水面下にはまだまだいらっしゃるのかなと思いますし、いつ山形県がですね、感染拡大地域のようになるかもわかりません。波があるかもわかりません。それにしても重症者

とか犠牲者とか出てくることも予想されますので、そこを本当に1人でも多くの方をですね、守らなきゃいけないという思いでありますので、できる限りのことをさせていただきたいと思っております。

記者

わかりました。ありがとうございました。

記者

時事通信の早田と申します。また戦略会議の件でお伺いしたいのですが、参加した両国会議員の方から、オール山形ということで、ぜひ県議会の議長だとか、あと、市町村会の長だったりだとか、そういった方たちにもぜひ参加してほしいということで、知事も要望してそれを受けるという形で、確か聞いていたと思うのですが、多分今お願いしている段階だと思うんですけど、実際にそうした関係の方々に入ってもらえそうかどうかという部分でお伺いしたいです。

知事

そうですね、もちろんオール山形というのが一番望ましいし、ただ、とにかく時間ということもあったし、最初から公表しながらやったら機材の奪い合いになるとかですね、いろんなことも考えられましたので、本当にできるだけ速やかに進めなきゃいけないというそういう状況の中で進めてきました。それで、全員が入った方がいいというのは、もちろん私もそのとおりだと思っています。第2回目の時にですね、どのぐらい入っていただけるか、少なくとも県議会にはですね、代表者には入っていただければと思っておりますけれども。ただですね、今回は実行するということが一番の目的でありますので、これまでやってきて、またそれをしっかりと実施していくというそういう試みと捉えていただきたいと思います。

ただ、本当に、遠藤利明先生もですね、ファックスで皆さんの元に送られたということも私も後で知ったのですが、オール山形というのは本当に大事なことであります。平時ですとそういうことをやって、私もやってきましたが、今回はまたちょっと違うということで、ただ今回のことが連休明けまで大体なるかと思いますが、その後と言うことを考えますと、もうすでに国会議員の先生方とか県議会の先生方にはお願いをしたのですが、オール山形での取組みというそういう大きな仕組みを作ってですね、オール山形で、山形県全体で、県民みんなでそのコロナを撲滅して、そして回復していこうというそういう大きな取組みを始めたいと思っております。

やはり全員一丸となつてというのが大事なことかなと思っております。経済界とかいろんな各界、各層の方々の実情とかですね、要望とか、そういったことも出していただいて、そしてそれは県としても、また国会議員の5人の先生方にもしっかりとご協力をいただいて、政府のほうにも提案なり要望なりしていくと、そういうオール山形での取組みですね、それを

しっかり、連休明けたらそっちの方向にやっていきたいというふうに思っております。すでに国会議員の5人の先生方にはそういうお願いの文書を出したと聞いております。

記者

わかりました。ありがとうございます。検温でもう1点お伺いしたいのですが、関連する市町村もたくさん出てくるかと思うのですが、そういった意味で市町村からサポートというか人的だったりとか、そういった部分で支援を求めたりするお考えはあるのでしょうか。

知事

私はお願いしたいと思っております、関係者会議の中には市町村の代表の方にも入っていただいているのかなと思っております。

記者

ありがとうございます。